

かわさき生ごみリサイクル交流会だより

NO.12

2024年3月

発行：かわさき生ごみリサイクル交流会実行委員会

第12回 かわさき生ごみリサイクル交流会

「生ごみは資源！」～農・花・人をつなぐコミュニティへ～

ユニークな生産者や市民団体との交流

2024年1月28日、市民9団体等で構成する実行委員会と環境局の主催により、第12回かわさき生ごみリサイクル交流会を高津市民館会議室で開催しました。今回は基調講演の時間は設けず、活動する4団体の事例を聞き交流しながら、市民の力で進めてきた“生ごみリサイクル”の活動の多様性、力強さ、楽しさ、繋がることの大切さを改めて感じる交流会となりました。そして、4団体の共通項は「土」。土には様々な微生物や生物が活動していて、土は地球上の80億人の食を支えている。その土に栄養を与えるのが生ごみなのです。参加者は会場とZOOM合わせて50人でした。

第1部 事例発表

- ① はぐるまの会
- ② 野菜だいすきファーム
- ③ NORACo 中山農園
- ④ かわさきかえるプロジェクト

① 社会福祉法人はぐるまの会【新井多佳夫さん】

知的障害のある成人期の仲間たち（利用者たち）が力いっぱい働くための作業所とグループホームを運営する社会福祉法人です。

宮前区稗原農園と麻生区早野の農園 もう40年近く農業活動をしています。当初は園芸療法という側面が強かったのですが、対価をもらえる活動を願い約10年前に野菜販売にもトライ。今では収入を得ることもできる経済的活動になっています。施設での野菜販売や中学校と共働のさつまいも収穫などを通して地域の人との交流の機会が増えました。近隣の農家からまとまった農地を借り受けることができ、いろいろな種類の野菜やハーブの栽培にチャレンジできるようになりました。極力農薬を使わないことと季節に合わせた露地栽培にこだわっています。

生ごみリサイクル活動 40年前に農業活動を始めた頃から続けてきました。現在は、はぐるまの会のグループホームと共同作業所の食堂から出る生ごみと近隣スーパー2店からの生ごみ一次発



酵物を材料に、年間約1,500～1,800kgの生ごみ堆肥を生産しています。はぐるまの会の畑4,500㎡に必要な堆肥を使っても余ります。

増えてほしい生ごみ堆肥を通じた交流活動 この余った堆肥を地域の人や施設等に提供することで交流のきっかけにできないかと願っています。交流により仲間たちも共に活動できれば、仲間たちにとっては継続できる役割として誇れるものになります。現在の交流活動としてかわさきかえるプロジェクトとの菜の花栽培と、里山活動グループへの堆肥提供があります。こうした活動が増えてほしいです。

② 野菜だいすきファーム【松下長子さん】

まちでも農のある暮らし 2010年頃から畑を生産者から借りました。無農薬でやりたいと野菜栽培を始めてから土作りの大切さを実感。生ごみ堆肥を知り、失敗しながら少しずつ栽培できる野菜が増えてきました。農家ではなく市民がやることの意義もあります。



定期的な農作業 ほぼ毎週土日に任意の参加で畑作業を行っています。ここでいろんな人に会うことも楽しみの一つです。野菜が育

っていく過程を見て、収穫し、草取りをし、一人一人が畑作業の中にたくさんの喜びや楽しさを見つける才能も畑に通うことで広がっていくと思います。

生ごみ堆肥・有機栽培・捨てない暮らし 公園などで落ち葉を集めて木枠コンポストで腐葉土を作り、野菜残さや雑草を堆肥に。地域の人たちに提供してもらった生ごみ堆肥は米ぬかなどを混ぜてボカシ肥を作り、それらも混ぜて熟成させています。これを肥料にして30~40品目の野菜を栽培し販売もしています。生ごみ堆肥・有機栽培は変えずにやっていきたい。捨てない暮らし=工夫を楽しむ暮らしをアピールしています。

「菜園のある公園」をスタート 2024年5月予定で、高津区橘公園の運営が民間委託になり、野菜だいきファームも関わることになりました。公園入口に大きな木枠プランターと木枠コンポストを設置し、少しずつ菜園のある公園にしていきます。定期的に生ごみ堆肥回収や講習会をして、子どもも大人も土に触れ合い「育て作る」企画を行う予定です。

③ NORACo 中山農園【中山周治さん】

農業を継いで 5年ほど前に早期退職して、家業を継ぎ、毎日模索しながら農業を続けています。



NORACo というのは、青少年のインターンシップを受け入れる際に使っている名称。落ち葉を集め、野菜くずを入れ再利用したり、山から枝

を採ってきてエンドウの支柱にしたり昔ながらのことをやっていますが、周りの農家が次第にやらなくなり、結果的にユニークな農家になってしまった。

ごみとは、消費しきれず処理に困ったものを指す言葉で、循環しているうちは**ごみ**とはいわない。以前インドに旅行に行った時、電車の乗客がチャイを飲んだ後、窓から容器をポイポイ捨てていました。素焼きの容器なので土にかえるのです。これがペットボトルだったら分解するのに何百年もかかるので循環とはいいがたいですね。

目に見える小さいサイクルでできる農業をやりたいと思っています。いまだに風呂は薪風呂なので毎日する灰を畑にまいたりしています。大学の馬術部からは馬糞ももらっています。

一番大切にしていることは土づくり 化学肥料は効率

化を図る上では必要ですが、植物本来の生長を助けるための栄養剤として補助的に使っています。土壌消毒はしないで生物多様性が豊かな環境で育った野菜をみなさんに食べてほしい。野菜に宿っている微生物が活躍し、ヒトの腸内でも豊かな生物多様性を醸成してくれるはず。野菜は栄養素のみで評価されるものではありません。抵抗力を備える体につくるのにいいものかどうか大切です。人も病気の際は薬を飲みますね。野菜も病害に負けそうになったときには農薬を使っています。そうならないようにどうやって野菜に育ってもらうか日々心を砕いています。

④ かわさきかえるプロジェクト【林恵美さん】

使用済みのてんぷら油を回収 川崎市の各区で家庭からの使用済みてんぷら油を回収しています。そして、リサイクル石けん「きなりっこ」とBDFをつくる川崎市民石けんプラントと連携して、地域内資源循環をすすめています。回収する油は年間約1万リットルです。

1970年代に多摩川が合成洗剤により泡だらけとなり、合成洗剤を使うことは自分たちが被害を受けるだけでなく加害者にもなるという認識から、石けんの使用を進める運動へと広がりました。

あさおてんぷら油資源化チームが発足 2010年チームが発足し、地域内の畑に生ごみ堆肥を入れて菜種をまき、育て、採れた種から油を搾り、搾りかすは畑に戻すといういわゆる「菜の花プロジェクト」の活動がスタートしました。毎年報告会、採れた菜種油を使つての親子料理教室を行い、食器は石けんで洗うなど、地産地消の大切さと、石けんを使うことで排水に気をつけ、海を汚さないことを体験

して学んでもらっています。石けん学習会も行うなど、積極的に活動しています。今や、気候変動から気候崩壊



とまでいわれるほど。昨年の夏は菜の花だけでなく農産物にとっては過酷な状況でした。当会は川崎市の「かわさきカーボンチャレンジ2050」に賛同し、持続可能な開発目標(SDGs)のゴールドパートナーとして、多くの人を巻き込む活動を今後も進めて行きます。

(まとめ ①と②は奥山玲子、③と④は村山美香子)

第2部 質疑応答・交流

☆市立小学校での石けんの使用

Q1. 学校給食の食器を洗うのに廃食油リサイクル石けんきなりっこを使っていると聞きましたが。

A1. かえるプロジェクト 食器をきなりっこで洗っている学校は市内 116 校中 84 校。給食が民間委託に移った時に石けん利用が減少しました。2校で当会が出前授業をしました。子や孫が通う学校に意見を申し出ていただくのが皆さんのできることかなと。

☆落ち葉

Q2. 落ち葉が町中にいっぱい捨てられるのがもったいない。川崎市でどのくらい活用できているか？現状について環境局に伺います。

A2. 環境局減量推進課 大部分が焼却されていますが、建設緑政局では活用に向けて検討をしていると聞いています。

☆学校給食の残さ

Q3. 学校給食の残さの処分はどうなっていますか？また、落ち葉・剪定枝と混ぜて堆肥にするという計画が川崎市としてあるのでしょうか？

A3. 減量推進課 給食残さはエネルギーに変えたり、民間企業と協力して大型コンポスト（機械）で堆肥化したりして、一部、学校の花壇で使っています。全学校となるとハードルが高いと思います。

NORACo: 落ち葉をほしい人はたくさんいます。市に音頭をとってもらいたいです。学校給食の食材に規格外のものは出せないという状況、食育の中で何とかならないでしょうか。

減量推進課 落ち葉や規格外野菜の活用については、所管する部署も違うためお答えが難しいです。

意見: 市には温暖化対策のため 2030 年までに温室効果ガスを 50%減らすという目標があります。そのために焼却ごみの落ち葉、生ごみ、紙、プラスチックなど資源化できるものは燃やさないで資源化することが必要。市民に分別徹底の協力を仰ぐのも大事。

意見: 廃棄物減量指導員としては、指導員の会で落ち葉の問題を出してみようと思います。

☆腐葉土作り

90 cm四方の木枠に落ち葉を入れ、月に 1 回切り返しています。丸いネット状の袋に落ち葉を入れるのも。助成金があれば落ち葉のごみが減るのでは。

☆土・堆肥

意見: 本日 1 月 28 日の東京新聞に「食料の 95%以



上は土由来」の記事がありました。生ごみ堆肥回収拠点をもっと増やしてほしい。堆肥が欲しい人、余っている人、誰かマッチングアプリできないか。

意見: 友達がアプリを開発したので頼んでみる。

減量推進課 現在、堆肥の受け入れ場所 10 か所。少しずつ進めているのでご理解をお願いしたい。

☆仏・米の法律で“生ごみを廃棄してはいけない”

2024 年 1 月からフランス全土で家庭の生ごみは廃棄してはいけないことになった。アメリカではカリフォルニア州に次ぎニューヨーク州でも。

☆土に返すルート作り

生ごみなど植物を土に返すルートを作してほしい。

発表者から

はぐるまの会 社会福祉法人の立場としてつなぐ役割で貢献できることがあります。

野菜だいすきファーム 周辺の市民が橘公園に生ごみや堆肥を持ってくると花いっぱいの公園になる。小さい単位、公園ごと、町内会、自主保育の人たちが集まればできることがあります。

NORACo 農業に係わる人が増えれば、江戸時代のようには戻らないが、意識向上につながる。近くで落ち葉を集め、農と係わるいろんな人を増やしたいと思います。

かえるプロジェクト 石けんを使うにはひと手間いるが環境を考えて使いこなしてほしいです。

来場者の声・アンケートより

こんな有意義な会は、もっと宣伝しないと残念／新ゆりアートパークスで落ち葉堆肥を作っている／若い人に合成洗剤と環境についてアピールできれば／落ち葉を集める苦労がある／ごみの話はとても参考になった／発言がききにくかった／助産師の会に来る若いカップルに情報を届けたい／落ち葉を木枠に入れ、生ごみを投入して堆肥化している／若い発表者なら若い人が来るのでは／ハーブティはおいしかった。カップ持参をチラシに入れてほしい／会場の温度は高かった。もったいない。

(まとめ 岩橋由紀子)

報告 川崎市の生ごみ減量化・リサイクル推進事業の取組

環境局減量推進課 奥津洋平

(1) 生ごみリサイクルリーダー制度

生ごみリサイクル講習会の講師や、市内小学校での生ごみリサイクルに関する環境学習などで、現在15名の方が活躍しています。

(2) 家庭用生ごみ処理機の購入費助成制度
電動生ごみ処理機、生ごみコンポスト化容器、密閉容器、ダンボールコンポストキットなどの購入費を一部助成しています。

(3) 生ごみリサイクル活動助成制度
家庭の生ごみを堆肥化し、地域の農地や公共の花壇

で活用する市民団体の活動立ち上げ支援のため、活動経費の一部を助成しています。

(4) 生ごみ堆肥の受け入れ
家庭で使いきれない生ごみ堆肥について、市内10か所で受け入れを行っています。

(5) 学校給食残さの飼料化の取組について
川崎市立小学校及び中学校の給食残さについて、民間の登録再生利用事業者に委託し飼料化する取組を継続しています。

交流会の開催にあたり

環境局減量推進課長 増田 亘宏

川崎市は現在も人口が増加している都市でありながら、市民・事業者・行政で協働してごみ減量化の取組を進めてきたことで、ごみの総排出量は減少しています。一方で、脱炭素化社会の実現に向け、ごみ焼却に伴う温室効果ガスを削減することが重要です。生ごみは主に焼却処理を行っているため、生ごみリサイクルの推進は、焼却ごみの削減につながります。また、これまで普通ごみとしていたプラスチック製品を資源としてリサイクルする取組を令和6年4月から川崎区で開始し、令和7年度に幸区、中原区まで拡大、令和8年度からは市内全域で実施します。本交流会は生ごみ減量における協働の取組を充実させる上で、大変有意義であり、今後の活動につながる交流の場となれば幸いです。

交流会を終えて

実行委員長 松島 洋

環境局との協働による生ごみリサイクル交流会は12回を重ねました。前回に続きZoomでの参加も企画して多くの仲間づくりを試みました。日々発生する「生ごみ」の再生利用の一つである堆肥化による土づくりへの取り組みで野菜の生産を続けているグループ、都市農業を営む中で地域とのつながりを図り農業のあり方を模索している農家、使用済み天ぷら油を集め、地域の農地で生ごみ堆肥を活用し、菜の花を育て、油を絞る活動など、我々の身近で、生ごみ再生への取り組みを続けている方々の事例を報告していただきました。お話を通して改めて生ごみリサイクルの重要性を再認識できました。



- 生ごみリサイクルの相談コーナーを設置しました。
川崎市生ごみリサイクルリーダーがダンボールコンポストと密閉容器による方法を紹介しました。
- 休憩時間には、ハーブティとクッキーのコーナーを設けました。はぐるまの会の提供です。マイカップ持参で楽しむ方も見受けられました。
- 会場に iTSCOM の TV カメラが入りその後放映されました。
https://youtu.be/bY0JNbi38RI?si=dg4sAsG0Om_SA5oW

かわさき生ごみリサイクル交流会実行委員会 2023

委員長 松島 洋 (川崎市生ごみリサイクルリーダー)
副委員長 門平きょう子 (川崎市生ごみリサイクルリーダー)
岩橋由紀子 (あさお生きごみ隊)
奥山玲子 (吹込クローバーの会)
竹内ふみ子 (エコグリーンクラブ)
戸高仁子 (久地フレッシュグリーン倶楽部)
福田 真 (社会福祉法人はぐるまの会)
村山美香子 (エコガーデンはるひ野)
柳下博子 (幸・循環型社会を考える会)

吉田賢治 (EM 普及活動研究会)
和田三恵子 (川崎市地域女性連絡協議会)
事務局 (川崎市環境局生活環境部減量推進課)
増田 亘宏 課長、遠山学史 係長、奥津洋平
連絡先：川崎市環境局減量推進課 電話 044-200-2579
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1

かわさき生ごみリサイクル交流会だより第12号編集
門平きょう子、岩橋由紀子、奥山玲子、村山美香子、飯田和子